

将来まちづくり計画(GCS等)の紹介

○ 大宮駅周辺・さいたま新都心駅周辺の将来まちづくり計画の紹介

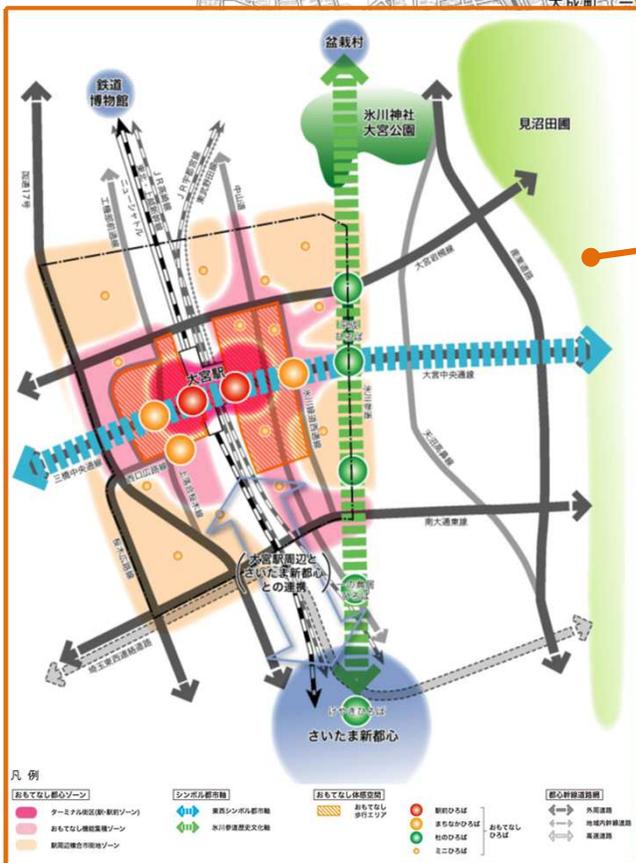
- ・ 大宮駅周辺においては、「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」および大宮駅周辺のターミナル街区として位置づけるエリアの具体化を図るための「大宮駅グランドセントラルステーション（GCS）化構想」がある。
- ・ さいたま新都心駅周辺においては、「さいたま新都心将来ビジョン」があり、改定を進めているところ。

《大宮駅周辺地域戦略ビジョン》

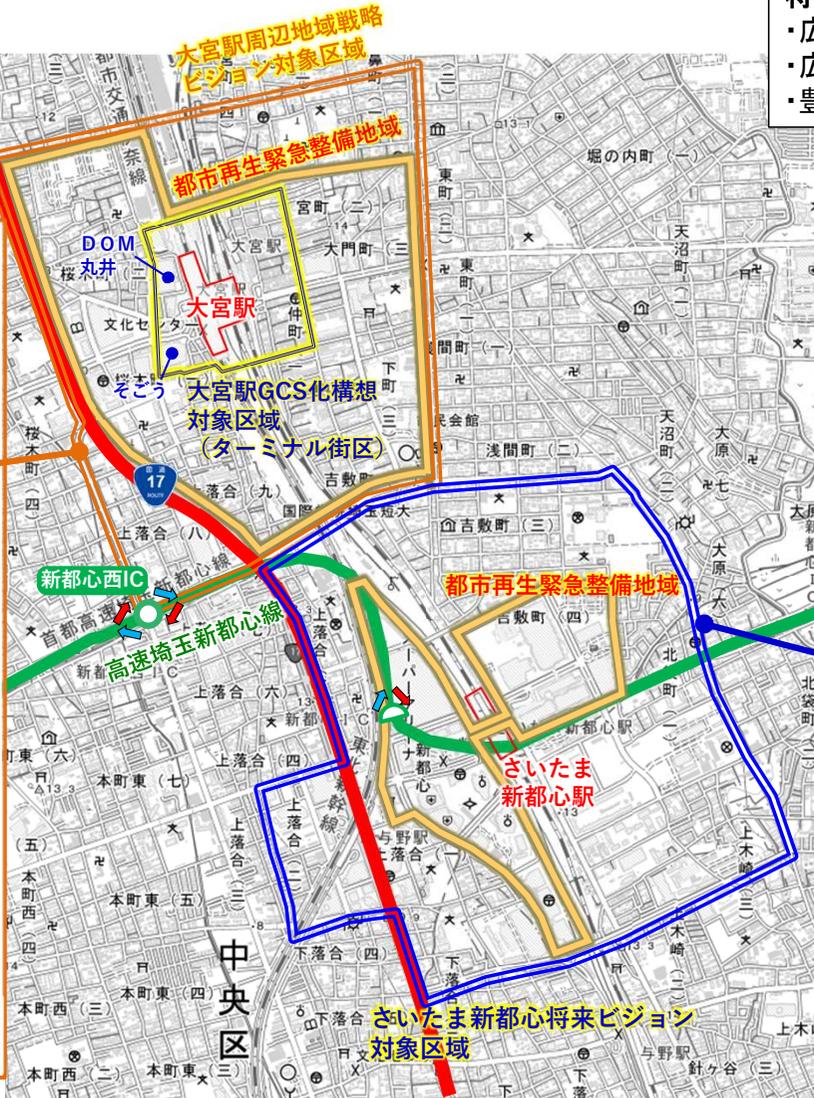
将来像

- ・ 東日本の顔となるまち
- ・ おもてなし、あふれるまち
- ・ 氷川の杜、継ぐまち

《大宮駅周辺地域まちづくりの方針図》



出典：大宮駅周辺地域戦略ビジョン



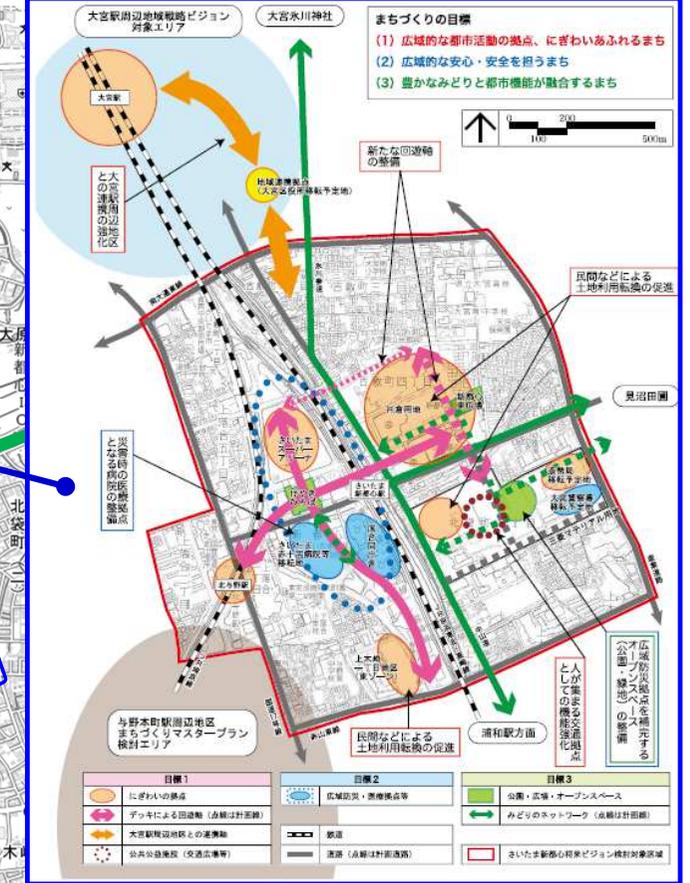
地図：国土地理院地図

《さいたま新都心将来ビジョン》

将来像

- ・ 広域的な都市活動の拠点、にぎわいあふれるまち
- ・ 広域的な安心・安全を担うまち
- ・ 豊かなみどりと都市機能が融合するまち

《さいたま新都心将来ビジョンまちづくりの方針図》



出典：さいたま新都心将来ビジョン

大宮駅周辺地域戦略ビジョン

第1回検討会資料 (再掲)

▶『交通基盤戦略・おもてなし交通戦略』といったコンセプトのもと、公共交通の利便性向上やさいたま新都心駅との連携強化の必要性が示されている。

『交通基盤戦略』

- **広域的な拠点性を持つ街にふさわしい交通体系**を形成することで、首都圏や東日本だけではなく、**国内や海外とのつながりを強化**するための空港や港湾へのアクセス向上を図る。
- **さいたま新都心との連携強化を図る**とともに、駅東西の連絡の利便性を向上させることで、様々な人やモノが行き交う都心をつくる。

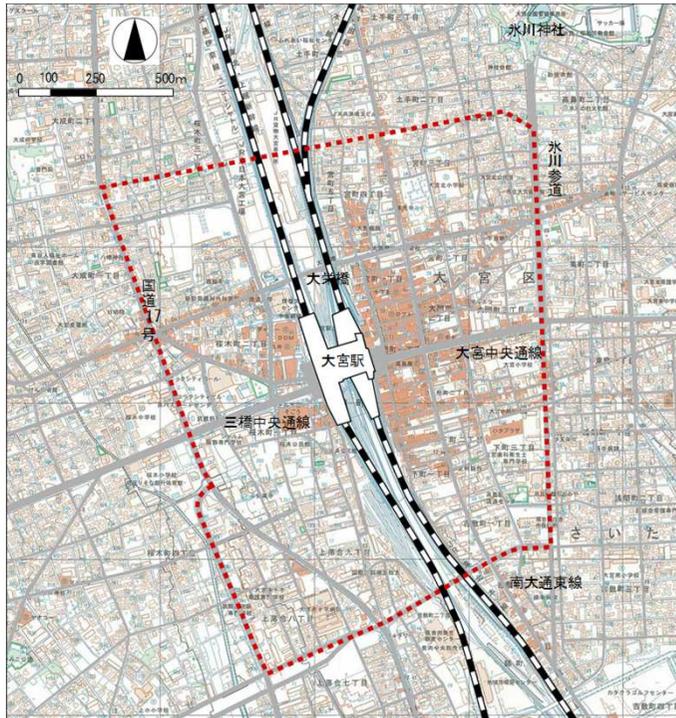
『おもてなし交通戦略』

- 道路や駅前広場、駐輪・駐車場等の交通施設について、情報技術の活用なども含めて対策を講じ、歩行者や自転車、自動車が調和した交通環境を創出することで、すべての人が安全に楽しくぶらぶら歩きを楽しめる人優先の歩行空間を確保し、まちのにぎわい創出の核となる回遊性の向上を図る。

『モーダルシフト戦略』

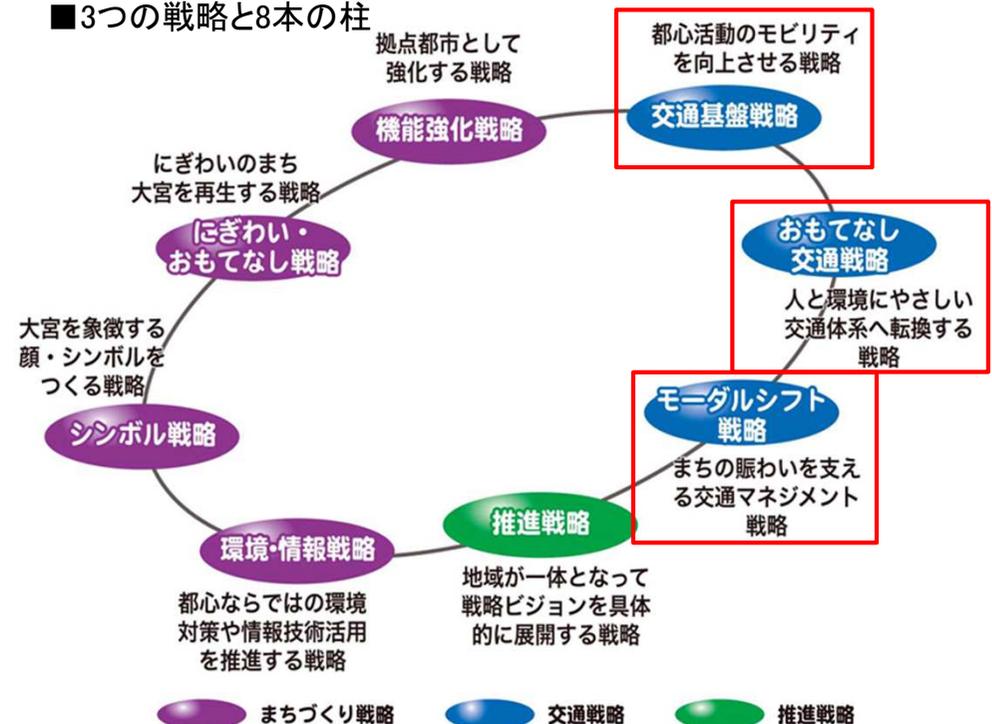
- 公共交通機関の利便性や快適性の向上、自転車利用環境の整備、新交通システムの導入など、環境負荷の低い交通手段を積極的に取り入れることで、地球にやさしく、高齢者や外国人を含む多様な人が便利に快適に行き交うことができるまちをつくる

■ビジョン対象範囲



出典：大宮駅周辺地域戦略ビジョン2010 (H22.5さいたま市)

■3つの戦略と8本の柱



出典：大宮駅周辺地域戦略ビジョン2010 (H22.5さいたま市)

○ さいたま新都心将来ビジョンの紹介

・ 市民と事業者及び行政がまちの将来像を共有し、実現に向けて取り組むための基本的な指針。

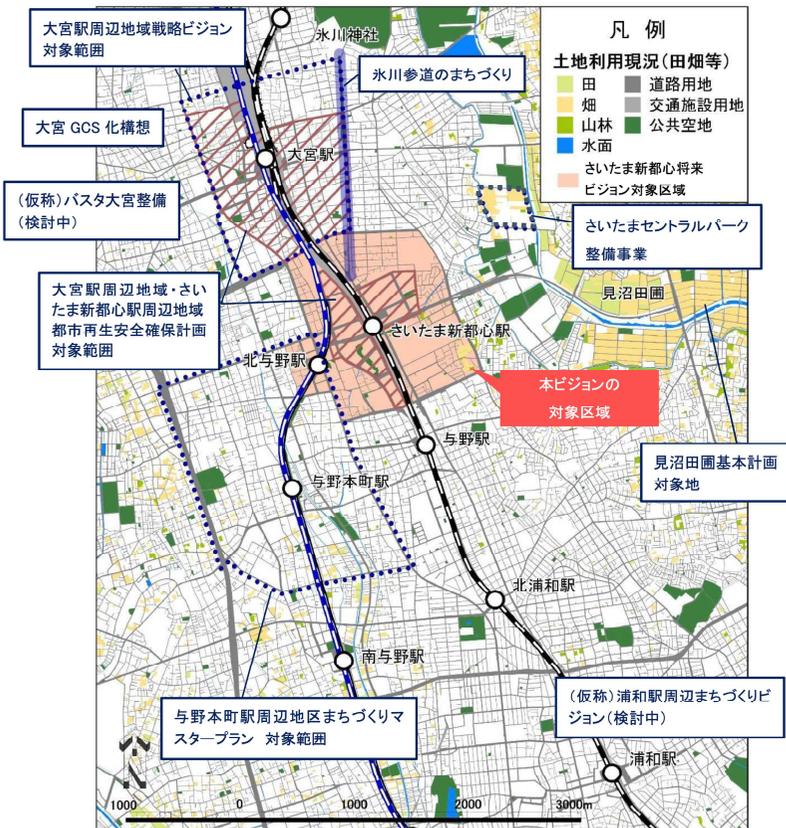
《さいたま新都心の将来像》

広域的な都市活動の拠点、にぎわいあふれるまち

広域的な安心・安全を担うまち

豊かなみどりと都市機能が融合するまち

■ さいたま新都心将来ビジョンの対象区域と周辺の状況



出典:さいたま新都心将来ビジョン改訂版骨子(案)(R3.12 さいたま市)

《さいたま新都心周辺地区の動向》

エリアマネジメント団体設立
R3年3月(一社)さいたま新都心エリアマネジメント設立。行政との連携で魅力的な空間創出・美しい街並みの維持管理などを期待。

さいたま市新庁舎等の整備
R13年度を目途に市役所本庁舎がさいたま新都心バスターミナルほか街区への移転の方向性が示され、現在検討を進めている。

さいたま新都心周辺地区の集合住宅の立地住みたい街ランキングが急上昇。大規模集合住宅の建設が進み、地域の定住人口が増加。これからは都市の利便性を享受しながら快適な生活を送る「住」の要素も大切。

食肉中央卸売市場・と畜場の移転
R10年度を目途に見沼区への移転が予定されている。跡地はさいたま新都心と大宮の2つの地区をつなぐ位置にあり、にぎわいや連携の拠点となりうる。

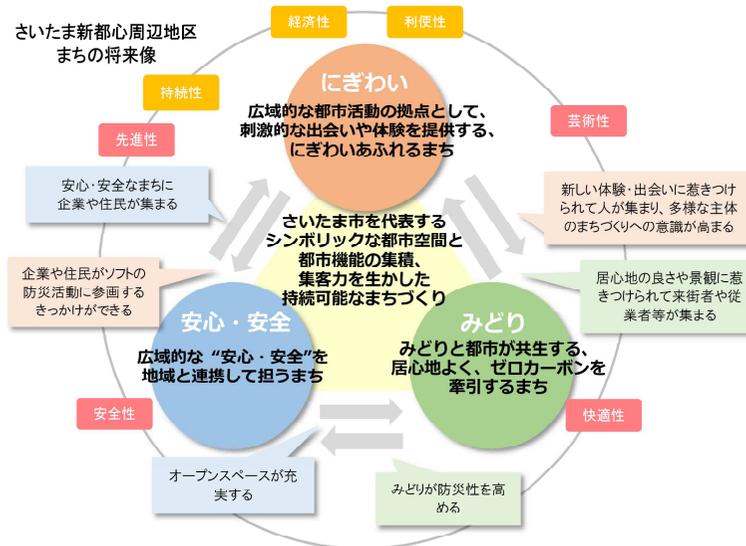
〈さいたま新都心を取り巻く社会情勢の変化〉

- テレワーク、コロナによる企業・従業員への影響
- 来訪行動・来訪者の変化
- 建築物やインフラの老朽化・陳腐化・維持コスト増大

〈さいたま市の取組の状況〉

- SDGsの推進
- バスタプロジェクトの推進
- 二酸化炭素排出実質ゼロの実現
- みどりに関する取組
- ウォークアブルなまちづくりの推進
- スマートシティの推進

《改定の視点》



《改定のスケジュール》

- ・ R3.12 さいたま新都心将来ビジョン改訂版骨子(案)公表
- ・ R4.4 さいたま市役所本庁舎の移転決定
- ・ R6.3 さいたま新都心将来ビジョン改訂版 策定予定

1) 大宮駅GCS化構想

▶大宮駅周辺地域戦略ビジョンにある「ターミナル街区」を中心としたまちづくり、交通基盤整備及び駅機能の高度化を三位一体で進め首都圏、さらには東日本全体の発展に寄与することを目的に策定

GCS構想(大宮の果たすべき役割)

- 「東日本の玄関口」として東日本全体の発展を牽引する役割
- 東京一極集中に伴う日本経済の災害リスク軽減とともに、安心・安全な市民生活を持続させる役割
- 多彩な地域資源や空間の良さを活かしながら、これからの働き方やライフスタイルを先導・提案し、市域全体に波及させる役割

■まちの将来像 (大宮GCSプラン2020より)



■GCS構想対象範囲



戦略ビジョン対象範囲のうち、駅、駅周辺交通基盤及び駅周辺街区からなる「ターミナル街区」がGCS化構想の対象範囲

出典:大宮駅グランドセントラルステーション化構想(2018.7さいたま市)

出典:大宮GCSプラン2020(2021.3さいたま市)



出典:大宮駅グランドセントラルステーション化構想特別委員会資料(R4.10.18開催)

2) GCS構想における交通広場整備との区分け

第1回検討会資料(再掲)

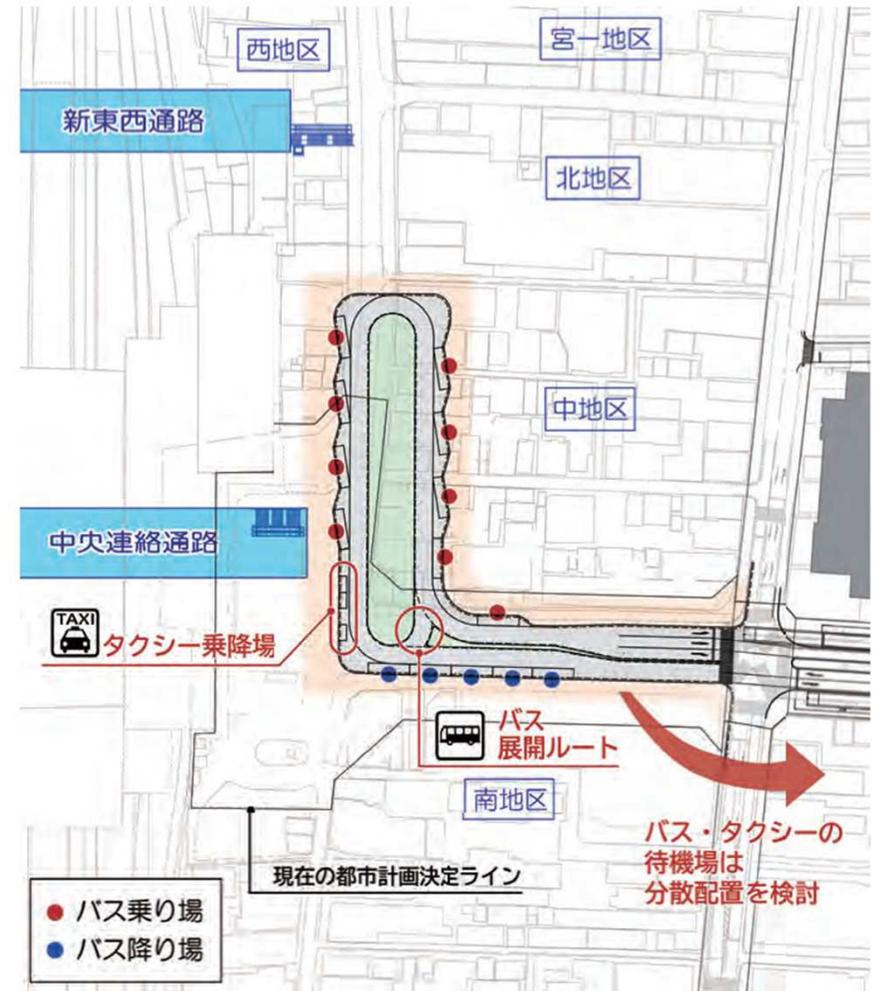
- 大宮駅GCS化構想では、駅東口に路線バス、タクシー及び一般車乗降用の交通広場を整備することとされている。
- 本検討会においては、主に、駅西口での高速バスを主体とした交通広場整備について検討を実施

■ 交通広場整備位置図(大宮GCSプラン2020より)



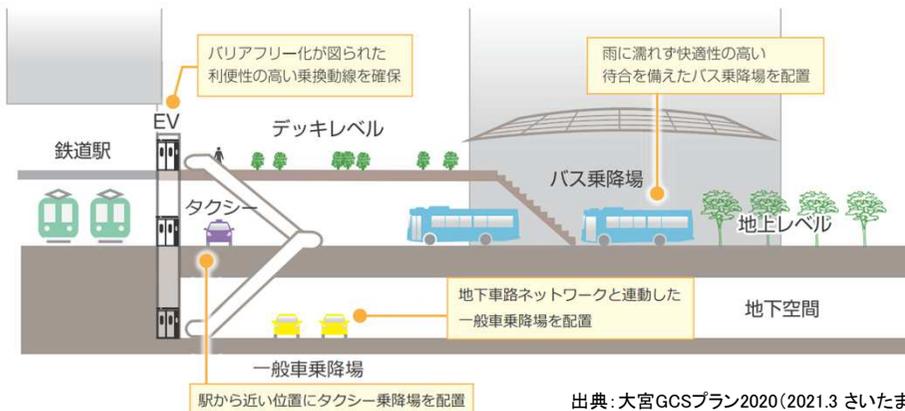
出典:大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)

■ 交通広場の整備イメージ(大宮GCSプラン2020より)



路線バス : 乗車9バス、降車5バス
 タクシー : 乗車2バス、降車1バス、プール36台分
 一般車 : 乗降16バス

■ 交通広場の考え方(大宮GCSプラン2020より)



出典:大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)

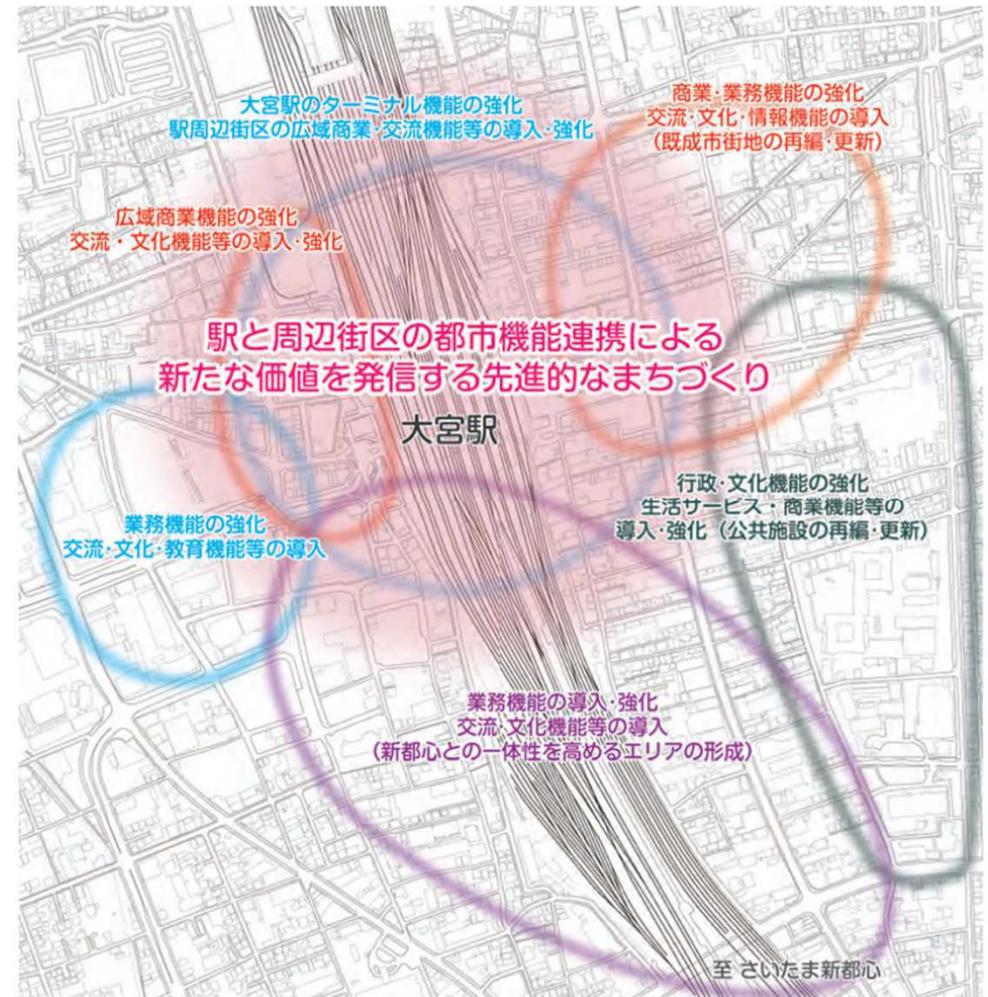
出典:大宮GCSプラン2020(2021.3 さいたま市)

3) GCS構想及びGCSプラン2020との連携・協調

➤ 駅西口での高速バスを主体とした交通広場整備や交通結節機能の強化の検討に際しては、**駅東口・西口の一体的なまちづくりによる相乗効果の発現**を目指し、GCSプラン2020で示されている都市空間形成の目標や整備の指針等を踏まえるものとする。

■ GCSプランにおける都市空間形成の目標と整備の指針

都市空間形成の目標	整備の指針 (24項目)
(回遊性) まちとえきをつなぐ 回遊空間をつくる まちとえきをゆるやかにつなげる パブリックスペースの創出	① まちとえきをつなぐ人のための空間* (仮称) アーバン・パレットの創造 ② 街路と沿道を一体的な空間として利活用する* (仮称) ストリート・テラスの創出 ③ 鉄道乗換の混雑を解消し、歩行者ネットワークを強化する駅の改良 ④ 界隈性のある路面商業空間の発展的な継承 ⑤ 誰にとっても利用しやすい回遊空間のユニバーサルデザイン化
(交通) ひとにやさしい 立体的な交通空間をつくる ストレスフリーな歩行者環境と 円滑で利便な移動環境の形成	① 空間を立体的に活用し、コンパクトで円滑に乗換ができる交通広場の整備 ② 開発事業を支える道路ネットワークの強化 ③ 駅周辺の自動車交通や道路整備の進捗状況に応じた交通需要マネジメントの展開 ④ 誰にでもわかりやすく利用しやすいサイン・案内システムの導入 ⑤ 様々なニーズに応える多様な交通モードとの連携
(都市機能) 新たな価値を 発信する先進的な まちをつくる 東日本との連携を見据えた 大宮ならではの都市機能の導入	① 東日本をひとつの圏域と捉えた経済活動の拠点づくり ② 「商都大宮」としての大宮のこだわりによる商業環境の形成 ③ 人口動態と働き方の変化に合わせたライフスタイルの提供 ④ スマートシティ化による業務・商業需要の創造
(防災・環境) 安心・安全の 要となる まちをつくる 先進技術の導入による災害に強く 地球にやさしいまちの実現	① 相互連携を活かした大宮セーフティバックアップシティとしての防災機能の確保 ② “街区連携型”の脱炭素まちづくりの誘導 ③ 環境緑化や環境活動の推進
(景観) 市民が誇らしく思い、 来訪者が感動する 景観をつくる 地域資源を活かした ここにしかない景色の創造	① 大宮のまちを感じることができる景観の形成 ② シンボル性の高い都市軸街路空間の誘導 ③ 五感に訴求する豊かな街路景観の形成 ④ 時の経過とともに趣が感じられるアーバンデザイン
(エリアマネジメント) まちの質や魅力が 持続する しゅきをつくる *大宮に関わるみんなで 取り組む持続可能なまちづくり	① 公共空間及び民地内公開空地の一体的なエリアマネジメント ② ターミナル街区全体でのデザインマネジメントとマーケティング ③ まちの創造性を持続させる組織・体制の構築



大宮駅周辺地域戦略ビジョン(機能導入・強化エリアのイメージ)引用

■ウォーカブルな取り組み (公共空間等の利活用)

○交通結節点の検討・整備とあわせて、「快適な歩行空間、賑わいと地域交流の場の創出」を図っていく必要がある。

○おおみやストリートテラス

- ・都市計画道路氷川緑道西通線の道路予定区域等を活用し、地域の多様な主体と連携協力を得て、仮設店舗・休憩スペース等を設置する社会実験を実施
- ・一番街では、道路占用に関するコロナ特例の制度を活用し、軒先1mの道路空間の利活用も実施



写真提供：UDCO



写真提供：UDCO



写真提供：UDCO

○大宮ストリートプランツプロジェクト

- ～ウォーカブル×グリーンインフラ～
- ・可動式植栽とベンチ等を組み合わせた緑化滞在空間の創出により、回遊性及び滞在性の向上を目指す社会実験



写真提供：UDCO



写真提供：UDCO

- 大宮停車場大成線の再整備
- ・“居心地がよく歩きたくなるまちなか”形成の取組の一環として整備工事を実施中

整備イメージ図



提供：さいたま市

位置図



出典：国土地理院地図